



令和8年 10月 1日 修道保育所

朝夕の風が少しずつ涼しくなり、秋の訪れを感じる頃となりました。日中はまだ夏の暑さが残っていますが、季節はゆっくりと次のページへ進んでいるようです。

園庭では、夏の経験を力に変えた子どもたちの、ひとまわり大きくなった姿が見られます。泥んこ遊びも、ますますダイナミックになりました。頭のてっぺんから足の先まで泥だらけになっても、そんなことはお構いなし。「見てて！」と声をかけ、できたばかりの泥の山から思いきり泥池に飛び込んで、満面の笑みを見せてくれます。春には、「こわいからしたくない」「したことがないからやらない」と泣いていた子ども達。その姿が、今では遠い昔のことのようです。穴が浅ければ「もっと深くしてみよう」と保育者と一緒に掘り、水が流れれば「こっちにも流したい」と水の道を広げる。友だちと一緒に考え、試し、うまくいかなければまたやってみる。そうして園庭いっばいに、2歳児なりに自分達の遊びをつくり出しています。その姿を見ていた0歳児も、裸足で水たまりにそっと足をつけてみました。冷たい水の感触に驚きながらも、もう一度そっと足を入れてみる。その小さな一歩もまた、自然との出会いの始まりです。

先日職員研修で、『遊びは「世界を愛することを、世界から愛される経験を通して学ぶこと」』『「遊び」は子ども自身が世界と出会うこと』それらを『招待状』という素敵な言葉を聞きました。

子どもたちは、何気ない出来事を見つけるたびに、まるで世界から届いた招待状を開くように、目を輝かせます。大人になると、毎日の忙しさの中で、私たちはその小さな招待状を見落としてしまうことがあります。でも、子ども達はちゃんと受け取っています。そして乳幼児期の子ども達には、その発見と一緒に喜び、共感してくれる大人の存在が大切なのだと思います。

「見つけたね」「おもしろいね」「どうなるのかな」そんなふうと一緒に立ち止まり、子どもの見ている世界をのぞいてみると、いつもの景色が少し違って見えるかもしれません。

園庭は、子どもたちにとって自然への第一歩。そこには今日も、子ども達にしか見つけられない小さな「招待状」が届いています。この秋も子ども達が見つけたものに一緒に立ち止まり、その驚きや喜びを分かち合いながら、一つひとつの「招待状」を大切に受け取っていきたいと思います。

今月も体調管理や生活リズムを整えて元気に過ごせますよう、よろしくお願いいたします



日	曜日	
5	月	内科検診 12:30～林クリニック
6	火	民生委員さんとの交流会 10:00～
13	火	身体計測 やまびこ号
16	金	歯科検診・フッ素塗布 10:00～
20	火	遊び・学び・育つ 安芸太田っ子の集い (詳細は後日配布します)
22	木	避難訓練
27	火	おはなし会 9:30～10:00
7・14 21・28	水	てくてくさんぽ 修道散策
30	金	ハロウィン遊び
日	曜日	11月の行事予定
21	土	生活発表会(9:00～/修道保育所)※詳細は別途通知 作品展 22日も展示(修道活性化センターアリーナ)
27	金	園外自然保育 月ヶ瀬公園 あかぐみ



《今月の目標》

●友だちとのつながりを広げ、ルールのある遊びや、協力しながら活動を進めていく楽しさを味わう。

●木の実や木の葉、秋の自然物を使って遊ぶ楽しさを味わう。



稲刈り応援行脚

9月中旬から稲刈りが本格的に始まり、保育所の周りでもコンバインの音がいぎやかに聞こえてくるようになりました。自分たちの稲刈りを前に、近所で行われている稲刈りの様子を応援しに出かけました。修道振興協議会の会長さんがコンバインで稲刈りをされている様子を見学したことをきっかけに、日にちを分けて、地域の方々の稲刈りを応援して回りました。子どもたちは、コンバインの大きな音にも負けない声で「頑張れー！」と一生懸命声援を送り、地域の方々とのふれあいを楽しみました。また、ライスセンターでは、刈り取ったお米を乾燥させる様子を見学しました。普段食べているお米が、どのようにして私たちのもとへ届くのかを知る、貴重な体験となりました。後日、天候も心配されたため、保育所の小さな田んぼでは少し早めに稲刈りをすることにしました。職場体験に来ていた中学生のお兄さんにも手伝ってもらい、みんなで力を合わせて稲刈りをしました。先生と一緒に初めて鋸鎌を握って自分たちで育てた稲を大切に刈り取る子どもたちの表情は、緊張もしていましたがとても嬉しそうでした。地域の方々の仕事を間近で見たり、応援したり、実際に稲刈りを体験したりする中で、子どもたちはたくさんのことを学ぶことができました。これからも、地域とのつながりを大切にしながら、さまざまな体験を楽しんでいきたいと思っています。



お散歩で育まれる5つの力

お散歩は気分転換になるだけでなく、子どもにとってわくわくする体験にあふれています。初めて見るもの、初めて聞く音。それらをじっと見つめたり、聞き入ったり、外の世界のいろいろな刺激にふれて、心も体もすこやかに成長します。

近所をゆっくり歩いてみると、知らなかった道や風景に出会えます。最初は抱っこ紐やベビーカーを使いながら家の周辺や近所などを短時間でまわる事からスタート!!徐々に時間を延ばしてリ、少しずつ範囲を広げてみたりすることで、子どもの好奇心が育まれます。その際には目に見えたものを伝えたり、子どもが興味を示したものに答えたりするといいでしょう。

お散歩では子どもの五感や好奇心を刺激します。体を動かす心地よさが感じられ、心身ともにリフレッシュでき、気分転換になります。四季折々の草花や生き物と出会い、豊かな感性が育まれ、気になる物と出会い好奇心が芽生えます。

広島県教育委員会乳幼児教育支援センター『遊び』は『学び』リーフレットより～



保育所では、雨の日も自作のレインコートを着てお散歩を楽しんでいます。ガードレールにある大きなクモとクモの巣を見つけ「わたあめ」と棒を回しながらクモの巣を集めたり、巣をじっと眺めたりする姿がありました。獣の足跡、栗の木、どんぐりの木いろいろな発見を楽しんだりしています。遠い距離も足取りよく歩き、坂道をダッシュで登る姿には、夏のプールで培った体力もしっかり表れています。「あしたもおさんぽいきたい」という声からも、お散歩が子ども達にとって楽しい時間になっていることが伝わってきます。

散歩のおともに「手作り乾燥梅しそ」が加わりました。ちょうどいい塩梅で「う～酸っぱい」といいながらおいしそうに食べています。

